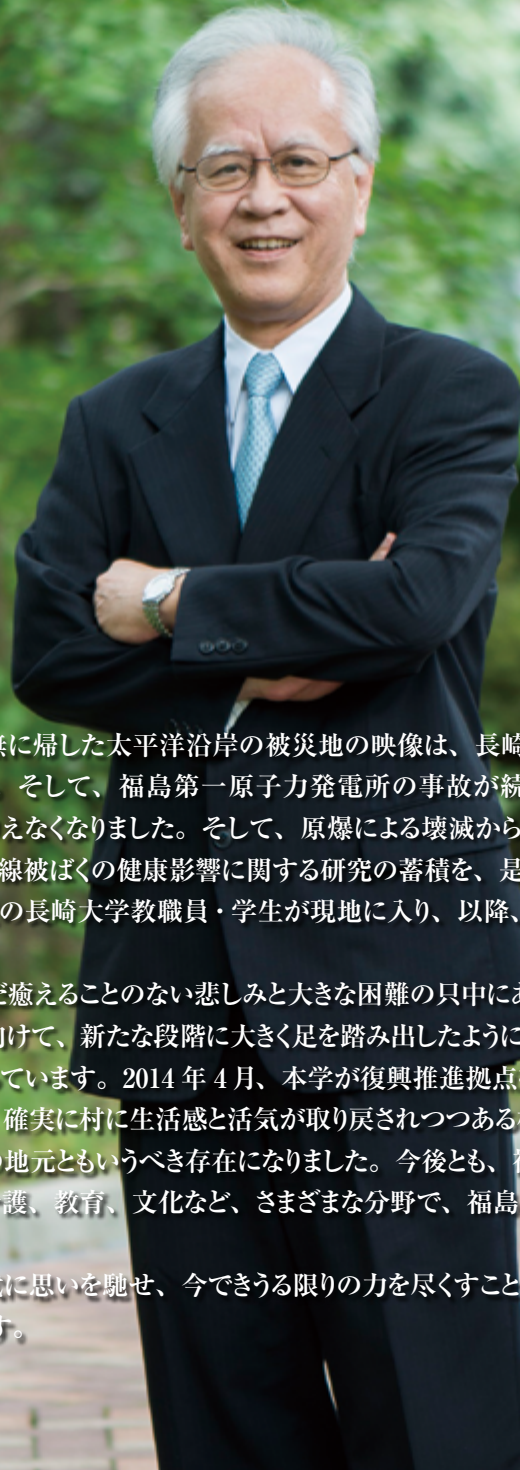


福島と長崎大学



2011年3月11日、巨大津波で無に帰した太平洋沿岸の被災地の映像は、長崎に住む私たちの心に刷り込まれたあの原子野の光景そのものでした。そして、福島第一原子力発電所の事故が続きました。その時点で福島県は、長崎大学にとって、他人事ではありえなくなりました。そして、原爆による壊滅からの復興を成し遂げた長崎の経験、長年にわたって積み重ねてきた放射線被ばくの健康影響に関する研究の蓄積を、是非とも役立てていただきたいと強く願ったのです。震災直後から、多くの長崎大学教職員・学生が現地に入り、以降、福島県民の皆様との協働が現在まで続いています。

大震災から4年、福島県はいまだ癒えることのない悲しみと大きな困難の只中にあります。しかし、いま、福島県は一時の混乱を脱し、未来の創造に向けて、新たな段階に大きく足を踏み出したように思います。県内のいたる所で、新しい未来創造に向けた胎動が始まっています。2014年4月、本学が復興推進拠点を置く川内村を1年ぶりに訪れましたが、人は増え、田畑は整備され、確実に村に生活感と活気が取り戻されつつある様子に、大きな感銘を受けました。

福島県は長崎大学にとって第2の地元ともいえるべき存在になりました。今後とも、福島県立医科大学や川内村との連携を中心に、健康管理のみならず介護、教育、文化など、さまざまな分野で、福島県の復興と未来創造の一翼を担わせていただきたいと思います。

福島県の未来とそれを担う次世代に思いを馳せ、今できる限りの力を尽くすこと。その先に、福島県、そしてこの国の未来創造のイメージが広がります。

長崎大学長 片峰 茂

目次

川内村を新しく“創る”	福島県双葉郡川内村村長 遠藤 雄幸氏	4
川内村の総合計画と長崎大学への期待		6
長崎大学 in 川内村 2013-2014		8
市民同士の交流深まる長崎と川内		12
長崎と福島は支え合っている	長崎市長 田上 富久氏	13
福島復興に向けた長崎大学の新たな取り組み		14
「風評」「風化」相反する課題に取り組む	福島県知事 内堀 雅雄氏	17
福島の復興と再生への道をいつまでも応援していく	長崎大学副学長 山下 俊一	18